

山崎 競技用の車いすは一般の車いすより軽く、車輪が開いて付いていて、接地面が少なく、車輪の回転が速くなるように設計されています。

市長 パラバドミントンと一般との違いはどんなことがありますか。

山崎 パラバドミントンのコートは一般のコートの半分を使いますが、それでも、四隅が狙われますので、かなりの移動距離があります。ダブルスは一般のコートと同じですが、車いすでありネット際に近づくと危ないのでネット際に落とすのはアウトになります。一般のバドミントンと若干の違いはあります。

市長 先ほどインナーマッスルを鍛えるとおっしゃっていましたが、体はどのように使うのですか。

山崎 上半身と体幹は、非常に重要です。体をそらせ、それを戻す動きの大きさをシャトルの勢いをつけます。相手の位置などを見ながら、瞬時にシャトルを打つ位置・速さ・球筋を考える。結構頭を使う競技です。

市長 神業としか言いようがないですね。

将来に引き継ぐオリリンピック・パラリンピックレガシーを

市長 日野市は競技場の建設などはありませんが、ソフト面のレガシーを作れたらいいと思っています。すでにオリリンピック・パラリン

ピック気運醸成事業で小・中学校の子供たちのところに一流のアスリートに来ていただいています。そういう人たちのスポーツ体験は子供たちの心と体に残るだろうと思います。また、大会が始まると、多くの方がボランティアで関わると思いますが、海外から訪れるさまざまな国の方々と接してお話やおもてなしをするなど新しい関係を作ることが、日野市の産業や観光・文化に大きな影響を与えていると思います。それを良い形で将来に引き継いでいければと思います。

また、今、私が強く思っているのがパラスポーツの競技環境をどう整えていくのかということ。現在の日本の状況は、諸外国に比べ非常に劣っていると思います。それを整備し、レガシーにしていかなければならないと思います。

今年はどうな年に

市長 今年はどんな目標を立てていますか？

山崎 今年はアジアパラリンピックが開催されます。これも4年に一度の大会で、パラリンピックのアジア版です。まずは、そこで活躍できることを目指してメダルを取れるよう一つずつ頑張っていきたいと思っています。

またアジアパラリンピックの前に

日本で開催される国際大会があります。前回この大会に優勝しましたが、これも重要な大会で二連覇したいと思っています。

さらに大会以前にしなければ

ならないことは体作りです。体作りは大変時間がかかります。寒い時期はけがをしやすいため、けがをしなないように、体作りをしなくてはと考えています。

市長 私は、今年、四つの柱を立てていきたいと考えています。一つ目は、先ほどの障害者差別解消推進のための条例の作成、二つ目は政策面で、子供の貧困対策、公契約条例策定、LGBTの理解推進を行いたいと思っています。三つ目としては、2025年に高齢化のピークを迎えますが、その時に向けて、在宅療養を支える組織としての地域包括ケアをどう作っていくかが課題です。そして、多世代が共生しお互いに住み替えをするようなモデルを多摩平、高幡台団地、平山の地域に作り「生涯活躍のまちビジョン」を推進していきたいと考えています。

そして最後に子育て支援に力を入れていきたいと思っています。保育



▲競技人口が少ないので、練習相手は男子選手。シャトルの行く先を広い視野の中で考えながら打つ

園の待機児をゼロに近づけること、また、子供のいじめ・虐待を防ぎ、子供たちの健全な育成をするための子育て世代包括支援センターという構想があり、それを進めていきたいと思っています。

他の市長さんなどから、自分のまちからオリリンピック・パラリンピックの選手が出場し活躍する話をうらやましく聞いていました。ぜひ今後、日野市からオリリンピックやパラリンピックで活躍するような選手がたくさん誕生してくれたらと思います。

今日お会いできたことは、本当にうれしいです。ぜひ、頑張ってください。次は、パラリンピック出場のお祝いでお会いしたいです。出場の際には、日野市民みんなで応援したいと思っています。

山崎 ありがとうございます。頑張ります。

市長 ありがとうございます。